

2024 9月 鷹栖町図書室に新しくいった本

(8月分より)

☆新しくいった本は他にもございます。図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書室の蔵書検索から探すこともできます。



たかす(一般)

『告白撃』(住野よる/KADOKAWA)
『御庭番耳目抄』(村木嵐/幻冬舎)

- 『死んだ山田と教室』(金子玲介/講談社)
- 『谷から来た女』(桜木紫乃/文藝春秋)
- 『わが人生の数か月』(ミシェル・ウエルベック/河出書房新社)
- 『手仕事をめぐる大人旅ノート』(堀川波/大和書房)
- 『地図でスツと頭に入る世界経済』(蔭山克秀/昭文社)
- 『え、うちの子って、栄養失調だったの?』(梶尚志/みらいパブリッシング)
- 『旅するツール・ド・フランス』(小俣雄風太/太田出版)

たかす(児童)

『なんのサンドイッチ?』(たなかひかる/大和書房)
『なつのおそろいをつくり』(布川愛子/ブロンズ新社)

- 『ねえねえ、なにを見て?』(ビクター・ベルモント/河出書房新社)
- 『資料室の日曜日』(村上しいこ/講談社)
- 『世界を変えた薬』(講談社編/講談社)
- 国語の授業では教わらない数え方辞典』(飯田朝子/幻冬舎)

きたの(一般)

『海を破る者』(今村翔吾/文芸春秋)
『同居鮫』(原宏一/双葉社)

- 『古本食堂新装開店』(原田ひ香/角川春樹事務所)
- 『迷子手帳』(穂村弘/講談社)
- 『勇氣論』(内田樹/光文社)
- 『痛みが消える自力整体』(矢上裕/新星出版社)
- 『アイスクリーム&シャーベット』(坂田阿希子/家の光協会)

きたの(児童)

『しずかなところはどこにある?』(鳥塚絵里/岩波書店)
『つきのよははさわがしい』(おのかつこ/国土社)

- 『夜明けをまつどうぶつたち』(ファビオラ・アンチョレナ/NHK出版)
- 『こそあどの森のないしよの時間』(岡田淳/理論社)
- 『もしもミツバチが世界から消えてしまったら』(有沢重雄/旬報社)

- 『笑う森』(荻原浩/新潮社)
- 『明日、晴れますように 七夜物語 続』(川上弘美/朝日新聞出版)
- 『オパールのはら』(桐野夏生/中央公論新社)
- 『ガザ日記』(アーティフ・アブー・サイフ/地平社)
- 『心がそっと傾く』(ナテジュ/かんき出版)
- 『女友達ってむずかしい?』(クリア・コーエン/河出書房新社)
- 『100年学習時代』(本間正人/BOW&PARTNERS)

- 『トガリネズミひみつのくらし』(六田晴洋/世界文化ワンダーグループ)
- 『恐竜レッスン』(コヤマスカン/くもん出版)
- 『ころころころころ』(みなみじゅんこ/のら書店)
- 『ぼくらナイトバス・ヒーロー』(オンジャリQ. ラウフ/静山社)
- 『海のエイリアン図鑑』(山崎陽子/山と溪谷社)
- 『はじめてのえいごえほん』(小林妙子/西東社)

- 『ルーマーズ俗』(堂場瞬一/河出書房新社)
- 『復活』(久間十義/日本経済新聞出版)
- 『惣十郎浮世始末』(木内昇/中央公論新社)
- 『ある翻訳家の取り憑かれた日常』(村井理子/大和書房)
- 『宿帳が語る昭和100年』(山崎まゆみ/潮出版社)
- 『ツレツレハナコのからだ整え井』(ツレツレハナコ/Gakken)
- 『枝もののある暮らし』(小野木彩香/エクスナレッジ)

- 『おふくさんのきもだめし』(服部美法/大日本図書)
- 『とって』(オオノマユミ/エンブックス)
- 『もぐらけんせつ ぼんぼこでらのおまつり』(長崎真悟/童心社)
- 『頂上決戦! 恐竜最強王決定戦』(Creatures Journey編/西東社)
- 『悪いことはなぜ楽しいのか』(戸谷洋志/筑摩書房) ほか

～鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～

図書室だより



9月6日(金)午後5時から、大人向けワークショップ『日野あかねさんと漫画をかいてみませんか?』を開催します。鷹栖町出身の漫画家・日野あかねさんと、一緒に楽しく漫画をかいてみませんか?
(8/10より申込み受付開始。定員20名)
また、9月22日(日)には方言講座“ことば”について語ろうも! 今月は第3回目。(申込み不要、定員なし)お楽しみに!



8月の本棚リレーは川原允さんでした。



「音楽のある図書室」は松井幸子さんによるピアノ演奏でした。